

## 能登半島地震災害支援ボランティアについて（第2報）

01

日本カトリック看護協会（JCNA）からの災害支援ボランティアは、7月に続き2回目です。今回は11月29日～12月1日の3日間で、看護師3名、介護福祉士1名が参加しました。滞在した七尾市は、やっと公費解体作業が始まったところで、私たちは解体するお宅の片づけや大型ごみの分別、運び出しなどのお手伝いを行いました。外観はきれいでしたが、中に入ってみると物が散乱していて足の踏み場のない状態、柱が傾いていて窓が閉まらない、引き出しが開かない、ひびが入った壁の隙間から雨漏りがするなど住める状態ではないことがわかりました。家主さんの「土足で入ってください、全部捨ててください」という言葉には胸が詰まりました。

片づける中で、思い出を少しでも探そうと、ご家族の写真や手紙など見つけた時は、とても嬉しくなりました。教会前で開催するカフェでは、健康相談とハンドマッサージを実施、地域の方30名ほどが参加されました。継続的な支援が求められているため、今後も活動していきたいと思います。

＊2月に派遣されたJMATにおいて、日本医師会から感謝状をいただきました。



地域医療連携センター  
緩和ケア担当師長 松川 幸江

## パストラルケアワーカーについて

02

当院には、パストラルケアワーカーがいます。

病棟の患者さんやそのご家族、外来患者さんや病院に訪問される方々のお話を聴かせていただいています。それは、人は全人的ケア（体・精神・社会・心のケア）が必要だからです。心のケア（スピリチュアルケア）は、人生の危機（病気、障害、死）に直面すると心の平穏さや生きる意味を失ってしまいます。身体の回復には心の状態が影響します。語ることで心が軽くなる、穏やかになる、大切なことに気がつく、整理ができていく、生きがいを見つけるなどその人らしさの回復につながります。医療チームケアの一つです。パストラルケアワーカーが病室を訪問しています。外来の案内に立っていることも。廊下を歩いているところでお話が始まることも。その一瞬の語らいは人生の一コマ、大切な出会いです。その出会いにわたしたちも感謝の想いでいっぱいです。どうぞ、お話しください。お気軽に声をおかけくださいますようお願いしています。



カトリック社会事業室

## 病気や生活への不安や悩みのご相談について

03

医療福祉相談室では、病気になってしまった、けがをしてしまった等で、医療を必要とする人が抱える生活上の問題（心理的、社会的、経済的問題、社会復帰等）について一緒に考え、問題解決に向けてサポートをさせて頂いています。また、そういった人を支援・介護をする立場であるご家族の不安や悩みを少しでも軽減できるようにお手伝いさせて頂いています。具体的には、入院患者様の退院支援（退院後の医療・介護についての相談）や医療費に関する相談、外来患者様の「在宅療養相談」「高額医療費制度」「介護保険」「身体障害者手帳」「生活保護」等の福祉制度の利用に関する相談に対応しています。



※写真中央が若山さん

どんな些細なことでも、分からないことや不安に思う事があれば、お気軽にご相談下さい。当院を利用されるすべての方に、安心して医療を受けて頂き、次の生活へスムーズに移行できるようにお手伝いさせていただきます。

医療福祉相談室 MSW（医療ソーシャルワーカー） 若山 夕里愛

# 聖風

せいふう

2025.1月号

発行責任者/院長 春田 純一 ●編集/総務課 広報係

社会福祉法人聖霊会  
聖霊病院  
HOLY SPILIT HOSPITAL

〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地  
Tel: 052-832-1181  
https://www.seirei-hospital.org



撮影場所：渥美半島（愛知県田原市） 写真提供：用度課課長 幾田 和男

## 「病の中から紡ぎ出された言葉」



社会福祉法人聖霊会  
理事長 内海 眞

「いのちが一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった、いのちより大切なものがあると知った日、生きているのが嬉しかった。」「神様がたった一度だけこの腕を動かして下さるのなら、母の肩をたたかせてもらおう。」  
この二つの言葉は、頸髄損傷のため20代で頸部以下の完全麻痺に加え体温調節も不能になった「星野富弘さん」の言葉です。青年期に身体的自由と未来を奪われ、肉体的にも精神的にも長く苦しい闘病生活の後に到達した、澄み切った境地が表現されています。この間、母親の献身的なケアがありました。病とそのサポートがこのような美しくかつ崇高な境地を創造したのです。ホスピスを再開しようとする今、私たち医療者はこれらの言葉の中に秘められている真実を噛みしめつつケアに当たろうと思うのです。

## 院長より新年のごあいさつ



社会福祉法人聖霊会  
聖霊病院  
院長 春田 純一

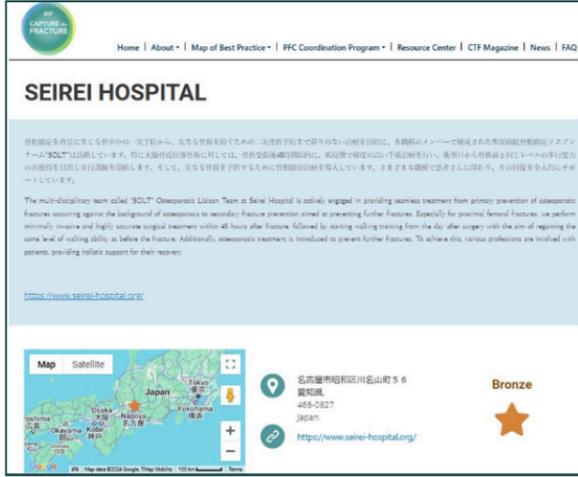
新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り申し上げます。昨年は国内外に紛争や災害が相次ぎ厳しい一年になりました。当院も例外ではなく、診療報酬の改定により、厳しい財政事情が続いています。自分も4月に赴任して8か月が経過し、ようやく当院の状況が理解できました。今年は4月に緩和病棟再開、5月に電子カルテのリプレース、12月に病院機能評価の受審を控え、職員が一丸となって準備する必要があります。昨年は計画どおりの収益が得られない時期がありましたが、昨年11月には熊谷先生（糖尿病専門医）が復帰され、1月からは堀田先生（消化器・肝臓の専門医）が赴任しました。さらに4月には消化器内科に常勤医師1名が赴任する予定です。昨年来欠員だった常勤医師数をようやく元のレベルに戻すことができました。

名古屋東部地区で唯一の緩和病棟再開は院内外に約束してきたことなので、何としても実行しなければなりません。地域医療に貢献し、職員の生活を支える為には病院もある程度の収益を考えた運用は必須になります。収益の主軸を担う整形外科、高齢者救急医療を支える内科、緩和医療を軸に当院を運営していきたいと考えています。もちろんその他の診療科、部門も自分たちができるベストを目指して頑張りたいと思います。一方で80年間続いてきた名古屋で唯一のカトリック系病院、社会福祉法人としての理念を大切にすることは言うまでもありません。今年が皆さんにとって素晴らしい年であることを心から願っております。

## 当院整形外科の骨卒中への取り組みが国際骨粗鬆症財団により

「銅賞」に認定されました。

「骨卒中」、聞きなじみがない言葉ですが、ご存じでしょうか？これは高齢者の生命予後に多大な影響のある大腿骨近位部骨折（※大腿骨の股関節に近い部分の大腿骨骨折の総称）や脊椎骨折を指します。



当院は2015年に大腿骨近位部骨折センターを開設し、2016年から様々な職種で構成される骨粗しょう症リエゾンチーム（SOLT）を結成しました。骨粗しょう症を背景に生じる「骨卒中」、特に大腿骨近位部骨折の1次予防から、次なる骨折を防ぐための2次骨折予防まで滞りのない治療を行っています。その活動がIOF（国際骨粗鬆症財団：骨粗しょう症や関連する筋骨格系疾患の予防・診断・治療啓発を専門とする世界的なNGO）が行っている共同事業の“キャプチャー・ザ・フラクチャー”で銅賞に認定されました。骨粗しょう症を背景に起こる大腿骨近位部骨折に対し、治療と予防を両輪に据えた当院の活動が国際的に認められとても誇らしく思いますし、引き続き患者さんの健康寿命に寄与できるよう尽力いたします。

整形外科部長 青木 良記

## 当院の骨粗しょう症への取り組み

みなさんは骨粗しょう症という病気を知っていますか？

最近では新聞や雑誌でも取り上げられる機会が増え、耳にしたことがあるのではないのでしょうか？骨粗しょう症は、骨が弱くなり骨折しやすくなる病気です。当院の骨粗しょう症外来は、検診で要精査となった方の受診が最も多くなっています。診察前に看護師がお一人ずつ問診を行い、生活習慣や現在の気になることなど聞き取りを行い来院される方の不安に寄り添った外来を目指しています。また、聖霊病院では折れた骨をただ治すだけでなく、骨折してしまった方の二次骨折予防にも力を入れています。入院中に骨密度を測定し、パンフレットを用いて患者さんとその家族へ生活指導を行っています。パンフレットのほかに、どなたにもご覧いただけるよう骨粗しょう症の予防に必要な栄養や運動についての動画を作成し、YouTubeでの配信も行っています。



また骨粗しょう症チームの公式LINEでは、骨に良いレシピなど骨粗しょう症に関する情報の配信もしています。ぜひ登録してみてください。

骨粗鬆症マネージャー 看護師 森本 真理

## 骨密度測定のすすめ

骨密度測定は、骨粗しょう症の早期発見と予防に欠かせない検査です。一般的な測定方法としてDXA法があり、放射線被曝が少なく簡便で低侵襲であることから、安全かつ客観的に骨の状態を知ることができます。当院でもDXA法で測定しており、検査時間は10分程で寝ているだけで測定することができます。骨密度が低い場合は、食生活の改善や運動、薬物治療などの対策を早期に講じることで骨折のリスクを軽減できます。



また骨密度が正常でも、定期的な測定をすることで骨粗しょう症の進行を監視し、適切なタイミングで予防措置を取ることが可能です。このように骨密度測定は骨粗しょう症の予防において極めて重要な役割を果たしており、骨の健康を知る上で重要な手がかりです。特に女性は症状が無くても、40歳以上になったら定期的に骨密度を測りましょう。自治体が行っている骨粗しょう症健診を利用すると良いです。一人ひとりが骨粗しょう症に対する意識を高め、予防に取り組むことが重要です。

放射線技術科 副技師長 米澤 伸哉

## 専門・認定看護師によるミニレクチャー

2024年10月から専門・認定看護師によるミニレクチャーを開催しています。開催日時は、第2・第4木曜日の11時から30分程度で、2階のフロアの一部を利用しています。当院には、家族看護、慢性疾患看護、皮膚・排泄ケア、摂食嚥下障害看護、認知症看護の5人の専門・認定看護師が在籍しています。その専門性を活かして地域の皆様へお伝えしたいことをテーマにレクチャーを考えています。10月には「皮膚を乾燥から守ろう！」をテーマにミニレクチャーを行いました。季節による乾燥が強くなるこの時期に、乾燥予防法や保湿剤の塗り方などをお伝えしました。実際に保湿剤を塗る体験をすることで理解を深めることができた様子でした。今後も定期的に開催していく予定です。興味・関心のあるテーマがございましたら是非ご参加をお待ちしています。



※左から真木Ns、上野Ns、長崎Ns、横山Ns、久保Ns

開催場所	2Fフロア	
開催日時	講師	テーマ
11月28日(木) 11:00~	慢性疾患看護専門看護師 上野 聡子	血圧が高いとどうして悪い？
12月26日(木) 11:00~	摂食嚥下障害看護認定看護師 横山 真由紀	飲み込みづらくないですか？ ~実直に美味しく食べるためには~
1月 9日(木) 11:00~	認知症看護認定看護師 真木 裕加里	認知症の人との関わりかた
1月23日(木) 11:00~		認知症の予防について ~楽しく脳トレをしましょう~
お問い合わせ	地域医療連携センター 地域支援室室長・師長 長崎 優子 ☎ 052-832-1181 (内線7120)	

地域支援室室長・師長 長崎 優子

## 一秒息災



※専門・認定看護師ミニレクチャーの様子

2024年10月から5名の専門・認定看護師が専門性を活かしたミニレクチャーを開始しています。私は慢性疾患看護専門看護師として、11月に糖尿病と高血圧について説明しました。糖尿病は血糖値を下げるホルモンのインスリンの分泌が悪かったり効きが悪かったりして血糖値が上がりやすい病気です。高血圧は自覚症状がほとんどありませんが、治療をしないで放置していると心臓、脳、腎臓に影響が出て身体がしんどくなります。血糖が上がりにくい、血圧が上がりにくいなどの自分の身体の特徴を知ってうまく付き合っていく、受診の時には医師に自分の体調で気になるところを相談して、早め早めの対処をとることで元気に過ごすことができると思います。「一秒息災」は、一つぐらい持病があるほうが健康に気を配りかえって長生きをすることです。病気とうまく付き合って、元気に過ごしてほしいと思っています。

慢性疾患看護専門看護師 上野 聡子

## 当院の認知症サポートについて

2025年は団塊世代が後期高齢者となり、日本の人口の5人に1人が75歳以上となります。高齢者が増えることで認知症になる方も増え、テレビや雑誌でも認知症が取り上げられるようになり、認知症が珍しい病気ではなくなってきました。2024年には認知症基本法が施行され、認知症があっても、周囲の理解を得ながら、希望をもって暮らすことができるよう、さまざまな取り組みが始まっています。

当院では2017年に認知症サポートチームを発足し、入院中の認知機能が定価した患者様のサポートをしています。ミニレクチャーでは認知症の症状や対応法についてお話をしています。予防に期待ができるという運動や食事についても一緒に実践しながらお手伝いしていきます。ご興味がありましたら、お気軽にご参加ください。

その他、高齢者や認知症に関するお困りごとやご相談がありましたら、いつでも当院へお問い合わせください。

認知症看護認定看護師 真木 裕加里